

「東北」イメージの変化 ... 90年代のもう1つの側面

・戦後の中学社会科・地理分野の記述内容を整理した日野(2015)は、1990年頃を境に記述内容が大きく変化したことを見出している。

・「冷涼」、「人口流出」、「出稼ぎ」などの「負」イメージの事項は1990年以降、大きく減少(右表)。

・代わって、**高速道路と首都圏との関係深化**

・「都市」の記述 ... 指摘・紹介だけから「発展」を記述。

・特に「**仙台**」が焦点化されて、農業の前に記述(東書,1980)

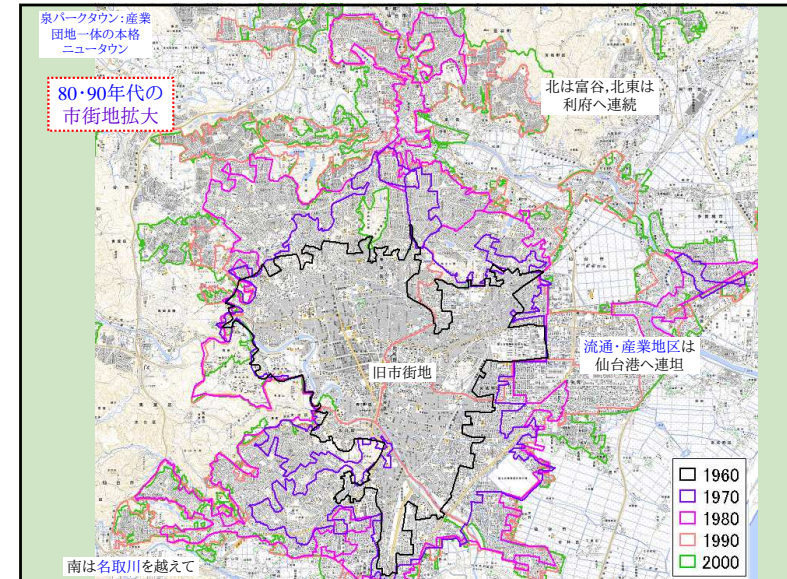
・2012年はさらに、**伝統文化、文化財**に言及(下表)。

	東京書籍				大阪書籍			
	1951	1971	1992	2012	1955	1973	1993	2012
自然・災害	18	30	31	24	28	38	21	16
歴史		2			2	3		2
生産	38	57	32	28	25	38	34	21
開発・交通		7	3	2	3	11	13	2
地域関係		3	1		1	3	2	3
都市		1	11	9		7	7	10
社会・文化		1	2		3	3	2	22
計	56	101	78	65	62	103	79	76

東京書籍				
	1951	1971	1992	2012
低い人口密度	1			
労働力供給	1	1		
出稼ぎ		1		
食料供給	1			
原料供給	1			
農地改革	1			
人口減少、過疎				1

大阪書籍				
	1951	1973	1993	2012
低い人口密度		1		
労働力供給	1	1		
出稼ぎ	1	1	1	
少子高齢化				1

日野正輝(2015)「東北地方のイメージの変化」。(座小田豊編「自然観の変遷と人間の運命」,東北大出版会)



仙台のイメージアップ

・「政令市」移行(1989)後の目覚ましい発展

・「大都市」の自覚+ふさわしい都市政策

- 交通 ... 地下鉄,環状高速道,空港線
- 市街地(再)開発 ... 駅裏再開発・宮城野大通(91), 駅北再開発・アエル(98), 定禅寺通景観協定etc
- 文化施設 ... 彫刻のある街,専用音楽ホール(90),メディアテーク(01),科学館(90),天文台etc.
- 国際化 ... 国際センター(91)

↑定禅寺通がfashionableなのは,ケヤキが溶け込む景観協定のおかげ。

⇒ 相乗的なイメージアップ

・市民イベントの創始 ... 青葉祭すずめ踊り(85), ジャズ フェス(91),みちのく YOSAKOI(98)

・プロスポーツ誘致 ... サッカー(94),野球(04),バスケット(05)

・楽都仙台 ... 仙台フィル(92),国際音楽コンクール(01)

伊東豊雄による柱のない革新的建築。各種建築賞を受賞。

都心機能の高度化

・バブル不況+郊外化にも負けず ...

・人口・世帯の増加 ⇒

①高層ビルの急増

②大手ブランド店の進出

第一生命Tower (1985, 90m) AER (1998, 145m) SS30 (1989, 172m)

西武進出(94),現LOFT(03) PARCO (2008)

loft

CHANEL (2000) COACH (2004) BVLGARI (2005)

東京院Square (1999, 106m) First Tower (2007, 99.9) Trust City (2010, 180) Kurax (2004)

三菱地所資産開発本部初の地方都市商業施設。東北初出店ブランドが集積

河北新報 2004. 4. 26

テナント流入 駅裏一変

集積進む仙台駅東口地区

IT企業140社 空き室率最低

「資料の安さ、電線や構内設備が整い、歩道も幅広いため、内通線（仙台駅から徒歩5分）の大通り沿いは、十八層の塔の長さがある」とMビル、十二層建ての「Mビル」は、仙台駅東口の集積を促したといわれている。Mビルは、仙台駅東口の集積を促したといわれている。Mビルは、仙台駅東口の集積を促したといわれている。

仙台駅東口地区のオフィス街として集積が進む仙台駅東口地区=宮城野区

東西線など

「ホリエウ、イオン、仙台駅東口地区のオフィスビルは、今後は集積が進むと見られる。Mビルは、仙台駅東口の集積を促したといわれている。Mビルは、仙台駅東口の集積を促したといわれている。」

- 「東北」のイメージアップは、もちろん「仙台」の力だけではない。
- 白神、平泉、出羽三山、遠野物語、会津、釜石製鉄...といった東北独自の歴史文化への注目も大きい。
- 祭り・伝統行事のパワー... ねぶた、竿灯、なまはげ... 人物・スターの力... アテルイ、伊達政宗、野口英世、宮沢賢治、フラガール...
- 現代は、そうした地域固有の歴史・文化が評価され、地域づくり資源として活用される時代。
- 「東北学」、「地元学」が関心を集めるゆえん。
- ※教科書記述の変化は、授業時数削減による取扱項目の「精選」で、網羅的な記述から、変化や代表例に焦点をあてる「動態地誌」に、指導要領が変わったためでもある。
- また同時に、格差解消政策の行き詰まりや、行き過ぎた「東京」文化への傾倒への反省から、経済的発展の尺度だけでない、「地域の多様性」の評価が、「東北」のイメージ向上につながっているといえる。
- しかし、こうした地域の独自性の強調は、地域をとりまく構造的問題を見落としがち。これからの東北の地域づくりは、その点にも忘れずに目を向けなければならない。

これからの仙台

- 1) 脱東京, 脱支店経済...
 - 仙台の大都市化は、他力本願... 企業の「東北支店」の立地
 - しかし90年代以降、事業所は減少
 - 流通合理化 ⇒ 大手企業の支店統合、地場企業淘汰
 - 自立的発展には、消費都市から生産都市への転換による「脱東京」が必須
- 2) 「産業都市」への脱皮
 - 大学集積 ⇒ 産学連携による新産業
 - 1989インテリジェントコスコス研究機構... 赤字累積で2020年度末で解散
 - 1995, 仙台ソフトウェアセンター... 集積低下2018年3月解散
 - 住みよい環境 ⇒ IT企業誘引, 日本のシアトルに
- 3) 国際化
 - 国際会議場(1991)
 - 世界基準ホテル... 国際ホテル(89), メトロポリタン(88), ロイヤルパーク(95), ウェスティン(2010) ... 施設は増えたが...
 - 世界的コンテンツが不足... 国際イベント, 観光資源
- 4) 東北の真の拠点
 - 東北観光の拠点に
 - 東北学術・産業の拠点に... 環境・エネルギー, 素材産業
 - 人口流出の「防波堤」としての役割実現を